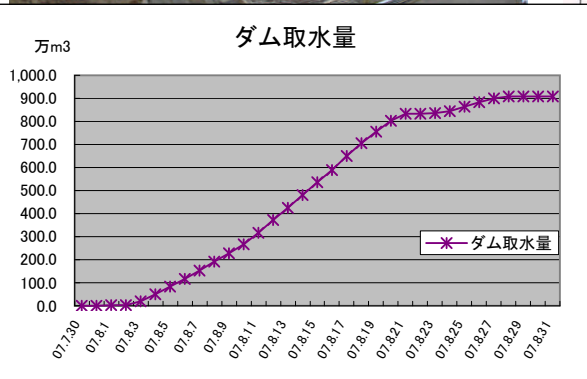


# 笹ヶ峰ダムの効果 (高田平野7千haの用水源)

県下有数の米どころである高田平野もその昔、用水といえば小川や湧水、雨水(天水田)に頼っていました。

しかし、今から約400年前(天正1573~92)、農民自ら用水路を開削(上江用水の原形)し、江戸時代(延宝1644~48)には高田藩の藩営事業として中江用水を開削しました。因みに、現在の野尻湖がある長野県上水内郡信濃町は当時、高田藩に属しており、野尻湖の水も高田平野の貴重な用水になっています。

この2大幹線用水路によって導かれた用水は荒涼とした原野を潤し、水田の開墾が進み、現在の水田地帯の原形を作り上げましたが、開田が進むと各地で水不足が発生するようになり、関川も夏期干天時に水量が漸減する傾向が多発。下流域では取水が極めて困難になり、干ばつ被害が度々、発生するようになったため昭和46年、国営関川農業水利事業としてダム工事が着手され、昭和58年竣工し、翌59年より国営造成施設県管理事業として、新潟県が管理を行っています。

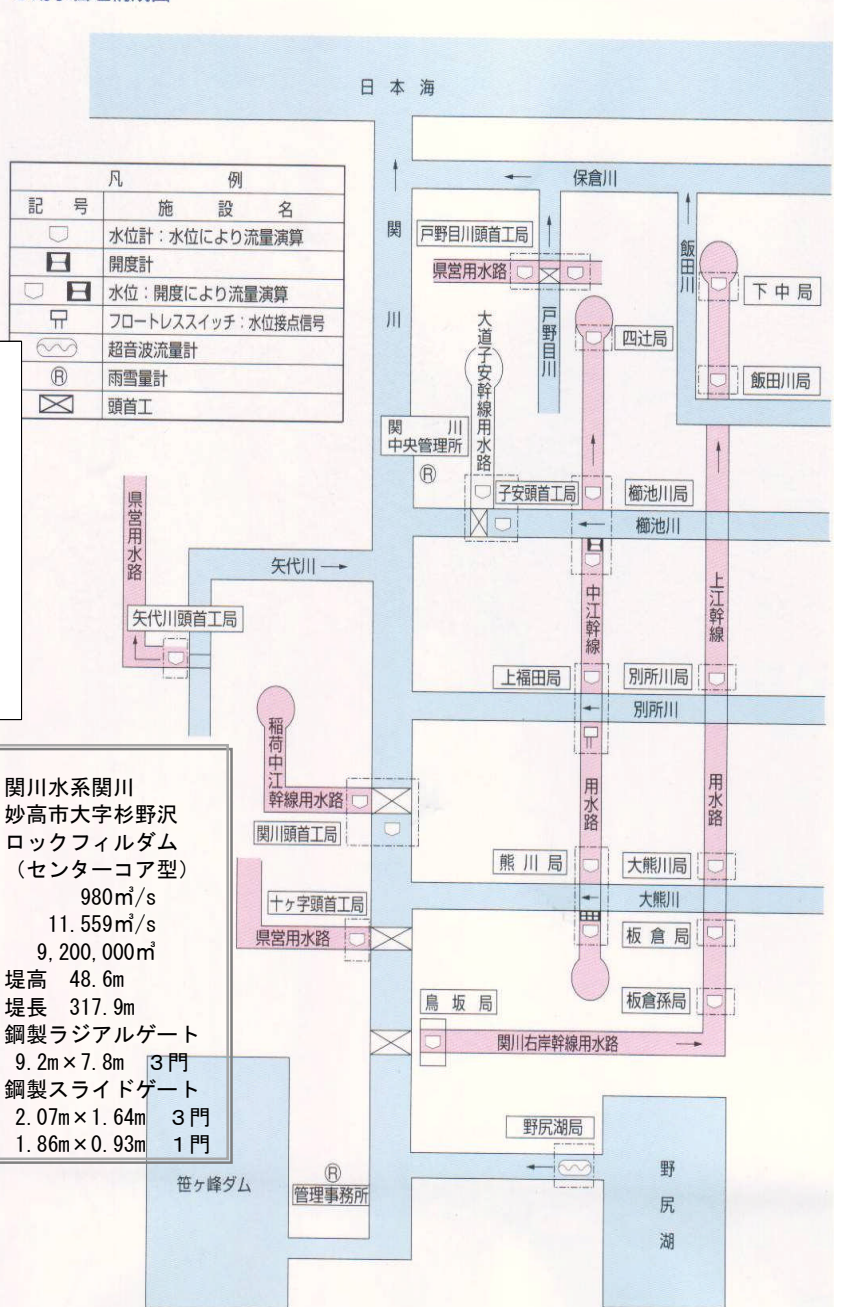


笹ヶ峰ダム諸元	
河川名	関川水系関川
位置	妙高市大字杉野沢
ダム形式	ロックフィルダム (センターコア型)
計画洪水量	980m <sup>3</sup> /s
最大取水量	11.559m <sup>3</sup> /s
有効貯水量	9,200,000m <sup>3</sup>
堤体	堤高 48.6m 堤長 317.9m
洪水吐	鋼製ラジアルゲート 9.2m×7.8m 3門
取水設備	鋼製スライドゲート 2.07m×1.64m 3門 1.86m×0.93m 1門

イメージ写真

H20.6.21新潟日報掲載(上越市大島区)

●用水管理構成図



凡	例
記号	施設名
水位計	水位により流量演算
開度計	開度により流量演算
フロートレススイッチ	水位接点信号
超音波流量計	
雨雪量計	
頭首工	